

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		商店街（代表者）	単価の動き	・秋が始まった当初から、ツイード等の素材感の厚い冬素材のものにトレンドが出ており、その動きにより、単価が例年の秋物より多少上がっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・今年は天候に恵まれ、気温も高く人の動きが非常に良い。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・先月はお盆セールがあったこともあり、今月の販売量は先月の94%と落ち込んだが、前年比をみると、売上が102%を達成しそうな状況である。
		その他専門店 [造花]（店長）	販売量の動き	・クリスマス商材などの時期物を取り扱っているため、販売量が増加している。販売量は、昨年の同時期よりも上回っている。
		設計事務所（所長）	それ以外	・建物の新築情報が若干増え、設計受注量にも反映している。また、建物新築に先立つ土地の売買情報も若干増えている。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・9月に入っても暑さは残り、秋物衣料の動きが鈍化し、前年割れの状態となっている。また、観光については観光客は格安パックで訪れており、夜の飲食店利用の客単価も落ちている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・休日の中心街への来客が特に少なく、販売量が伸びない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・秋物のシーズンに入ってきたが、天候の影響もあり、依然として消費者は慎重な動きである。
		一般小売店 [土産]（店員）	それ以外	・9月の空港での売上はほぼ前年並みだが、一昨年からは10%以上減少している。空港の乗降客数も昨年と同じくらいの乗降客数はあるが、良かった頃と比べると団体客数は減少しており、引き続き厳しい状況にある。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・秋物の立ち上がる月だが、動きは依然として鈍い。残暑が厳しいことも要因として挙げられるが、「騒々しさ」が感じられない。来客数も低調に推移している。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・上旬の残暑対策、中旬の台風の影響に加えて、下旬の天候不順もあり、今月は秋物の低迷が続いている。
		百貨店（担当者）	単価の動き	・特定の顧客を対象にした催事では、単価が前年をやや上回るなど、高額商品の売行きに明るさがみられるが、店頭では依然として客単価、来客数ともに伸びがみられない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・例年、秋物の割引等を実施して売上を作っており、今年も同じ企画を実施したが、客の反応が悪く、衣料品を中心に売上の苦戦が続いている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客の流れはあるが、相変わらず単価が低く、全体としては変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・7～8月は猛暑の影響で売上、客数とも良かったが、夏が終わり、春先と同じような客数に戻っている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・夏場を除くと、来客の動きはほぼ横ばいの状況である。買上点数自体は増加傾向だが、単価の低い商品が中心になっている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・台風や雨続きといった天候の不順により、店舗前の歩行者数に非常に波がある。街の中心部に立地していることもあり、アーケード街や地下街がすぐ近くにあるため、雨の日などは客足が減る傾向にある。好天が続けばもう少し客数が増えたとも思われる。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・9月の売上は前年を上回るなど、引き続き好調である。客も、店をよく回ることが増えている。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・高額商品の伸びが鈍く、低価格車に売上を頼っている状況である。
高級レストラン（スタッフ）		お客様の様子	・ランチ・ディナーとも前年を上回るなど引き続き好調である。特に個室は、昼食時の企業の会合などが増え、前年を大きく超えた。昼夜を問わず、レストランでは、企業の小グループ客が見受けられるようになってきた。	

	一般レストラン (スタッフ)	単価の動き	・先月に引き続き客数は堅調に推移しているが、客単価の低下による影響が大きい。前年と比較しても、客数は3%近く増えているが、単価が3%減少しており、結果として、売上は若干の減少となっている。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・常連客の来店回数が少なくなっている。
	観光型ホテル (経営者)	販売量の動き	・道外観光客の入り込みが停滞している。また、消費単価も宿泊料、付帯収入ともに伸び悩みが続き、苦戦を強いられている。はっきりした要因がつかめず、手の打ちようがない状況である。
	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・来客数は昨年とほとんど変わっていない。夏場は参議院選挙や台風があったり、または航空機の便数が減ったりと、需要・供給両面でマイナスが続いていたが、9月は影響が出てなく、正常に戻った感じがする。
	観光型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・総消費単価は若干ながら上向いているものの、宿泊客数が伸び悩んでいる。7~8月ほどではないにしても、苦しい状況に変わりがない。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・今年に入り、SARSや戦争が一段落しているが、02年度と比較すると、各月とも前々年割れが続いている。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・オリンピックの反動もあってか、秋の旅行シーズンになり来店数は増加してきたが、販売量をみると、昨年より若干上回っている程度であり、8月のマイナスをカバーするまでには到っていない。
	タクシー運転手	お客様の様子	・実車率、前年比とも3か月前とほとんど変わらない。
	観光名所(職員)	単価の動き	・客の購買意欲は依然として低い。
	観光名所(役員)	来客数の動き	・9月の輸送人員は7%程度落ち込む見込みであるが、10月は回復見込みであり、全体としては変わらない。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・新規メニューに対しての客の反応が鈍いように感じられる。
	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・モデルハウスの来場者が、相変わらず少ないまま推移している。
やや悪くなっている	コンビニ(エリア担当)	競争相手の様子	・気温が高いために、コンビニの売上は上がっているが、日常生活必需品となるスーパーの基礎商材の売上が下がっている。
	家電量販店(地区統括部長)	販売量の動き	・8月は猛暑、オリンピック需要により売上増となったが、9月に入ると台風上陸による被害もあり、消費が冷え込んできた。商品的にはAV機器は堅調だが、OA商品が相変わらず厳しい。
	乗用車販売店(従業員)	来客数の動き	・新規来場者数が、昨年より4割ほど少なくなり、かなり厳しい状態になった。
	その他専門店 [医薬品](経営者)	来客数の動き	・例年、9月は業界的に季節販売品に乏しいが、今年は例年以下の客数で推移した。台風などの不可抗力要素も響いた。
	その他専門店 [ガソリンスタンド](経営者)	お客様の様子	・石油製品価格の高騰により、買い控えがみられる。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・9月は地元活性化のために、色々なイベント・お祭りがあり、人の動きはかなりあったが、若者や家族連れなど、直接、営業につながる人が少なかった。ただ、繁華街に人が集まるということは、にぎやかで良いことだ。
	タクシー運転手	来客数の動き	・観光客の入込もパツとしないことに加えて、市内の需要も段々と下がってきている状態である。
	パチンコ店(店員)	お客様の様子	・店舗内商店街の夜の人通りが少なくなってきた。
悪くなっている	一般小売店 [酒](経営者)	販売量の動き	・例年9月は売上が良くない上に、台風の被害が相当あり、足を引っ張っている状態である。

		スーパー（店長）	来客数の動き	・7～8月と客数が前年を上回ったが、9月は前年比95%と悪化している。台風の被害や気温が高いことの影響、また社内におけるプロモーションの違いが要因として挙げられる。9月単月の一過性の要因であれば良いが、懸念材料である。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・台風の影響もあり、客足の出が非常に悪くなっている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・夏が過ぎて観楓会等があると思ったが、思ったよりも少なく、来客数は前年を割っている状況である。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・客の動向が悪く、販売量が低下している。加えて単価の低下もみられる。
企業 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・個人需要、法人需要ともに伸びている。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・本州の好調な景気に引っ張られ、先月同様に、鋼材・建材・木材等の荷動きは堅調である。ただし、原油価格の高騰が、ここにきてフェリー運賃の値上げという形で表れ、道内の荷主および運送業者には、この運賃値上対応力がないため、業績の悪化、または荷動きの減少という状況になるのではないかと懸念される。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・先月に引き続き、受注量、投資内容とも、徐々に良くなっている。コスト削減のための先行投資ではなく、純粋な投資も増えていると感じる。
		その他非製造業 [機械卸売] （従業員）	受注量や販売量の動き	・札幌圏では、大型ビル、工場、ショッピングセンター向けの鉄骨製作が進行中で、工事業者への資材供給に苦労するようになってきた。短納期が要求されるので、本州や中国輸出で供給が少なくなっている道内向けの資材確保に苦労している状況である。ただし、価格的には厳しい状況に変わりない。
変わらない		食品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・原油価格の高騰は生産コストの増加となり、関連企業とも商品価格への転嫁ができない状況にあり、限界点に達している。また、二度にわたる台風により、農林水産業といった一次産業は大きな被害を受けている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事の受注が大幅に落ち込んでいる。民間工事は相変わらず単価が厳しい。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・原油の高騰による荷動きが心配されるが、今のところは保管貨物を含めて予定どおりに推移している。
		金融業（企画担当）	それ以外	・設備資金は低調に推移している。燃料価格など原材料価格の上昇を価格転嫁できない企業が多い。特に運輸業、食品製造業で価格転嫁が遅れている。
		司法書士	取引先の様子	・先月と同様に、不動産取引や建物の新築等の分野は横ばい状況である。
		その他サービス業 [システムハウス] （経営者）	取引先の様子	・相変わらず厳しい条件での仕事が続いているが、仕事量が減っている訳でもない。
		その他企業 [コンベンション担当] （従業員）	受注量や販売量の動き	・宴会関係の定例物件には大きな動きはない。宿泊に関しても道内、道外客とも、動きに活発さはない。
	やや悪くなっている			
	悪くなっている			
雇用 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・派遣のオーダーが増加している。IT関連の技術者およびコールセンター要員のオーダーが特に増えており、事務系の職種についても派遣オーダーが増えている。正社員の求人も堅調であるが、求めるスキルが高く、なかなか成約しない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年比で求人件数が二けたの伸びをしている。特に、建設業や飲食業といった業種で増えており、職種では派遣・業務請負等の間接雇用、アウトソーシング系の求人が増えている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人が増加傾向にある。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率が前年比で0.10ポイント上昇しており、新規求人数が10か月連続で前年を上回っている。しかし、パート求人の割合は相変わらず高く、正規雇用を希望する求職者には厳しい雇用環境である。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・大学を訪問し、今後採用したいという企業が増えてきている。通年採用や秋採用もあるなど、求人が増えている。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・請負、または派遣の求人件数が微増だが伸びている。しかし、本州方面の求人が主体となっていることから、地元の求人には結びついておらず、全体としては変化はない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は4か月ぶりに増加したものの、前年と比べて0.8%の微増にとどまっている。今年度4～8月までのトータルでも前年と比べて4.2%減少しており、依然として厳しい水準にある。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数の総数は増加しているものの、地元就業の求人は増加していない感じを受けている。
やや悪くなっている			
悪くなっている	-	-	-